

森林における鳥獣被害の現状と対策

平成30年8月

林野庁 森林整備部 研究指導課
森林保護対策室長 稲本 龍生

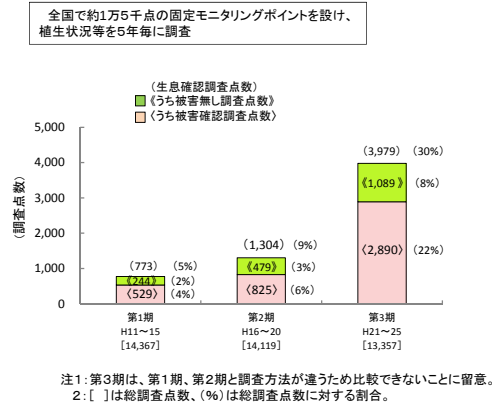
目 次

1 森林における鳥獣被害等の現状	1
2 森林における鳥獣害対策	
(1) 鳥獣害防止に関する森林計画制度での対応	4
(2) 鳥獣害対策関連事業	5
(3) 鳥獣害対策の技術開発	8
(4) 国有林野におけるシカ被害対策	9

1 森林における鳥獣被害等の現状

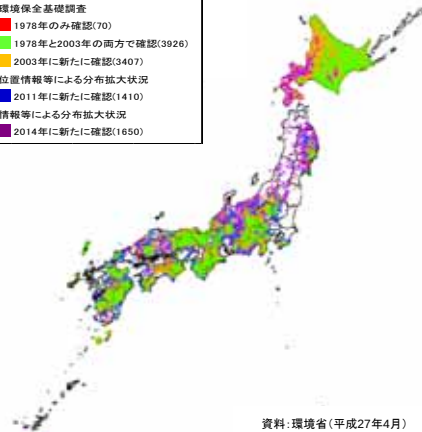
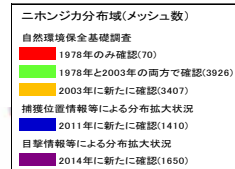
- シカの生息数の増加及び生息域の拡大により森林の被害は深刻な状況にあり、全国の森林の約2割でシカによる被害を受けていると推測。
- シカの生息分布は1978年度以降大きく拡大しており、2014年度までの36年間で分布域を約2.6倍に拡大。全国の総メッシュ数に占めるシカの分布割合は約6割。

■シカによる森林被害の状況



資料: 森林生態系多様性基礎調査(林野庁)

■ニホンジカ 全国生息分布メッシュ比較図

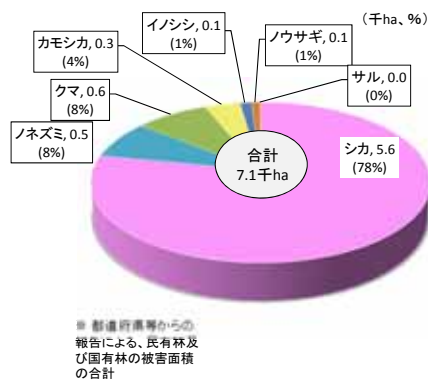


資料: 環境省(平成27年4月)

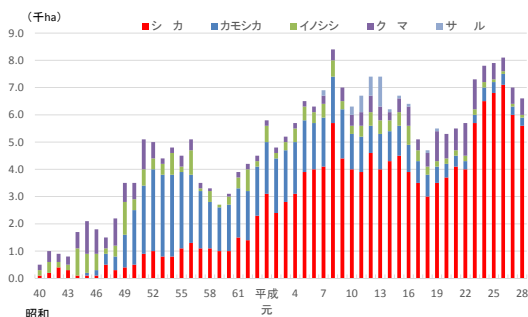
— 1 —

- シカ被害は昭和50年代から増加しはじめ、平成に入って急激に増加。
- 近年のシカ被害面積は約6～7千ヘクタールで、野生鳥獣による森林被害のうちの約8割を占める深刻な状況。

■主要な野生鳥獣による森林被害面積(平成28年度)



■主要な野生鳥獣による森林被害面積の推移(ノネズミ、ノウサギ除く)



— 2 —

シカによる森林への影響

人工林



北海道
胆振地域 連続した枝葉の食害により盆栽状になったカラマツの植栽木



滋賀県
雲仙山周辺 スギ人工林におけるシカの剥皮害



静岡県
富士山周辺 シカの食害を受け成林が見込めないヒノキ新植地

天然林



北海道
知床 エゾシカによる広葉樹の樹皮食害



三重県
雲出川上流域 天然林におけるシカの食害による下層植生の消失(一部表層崩壊)



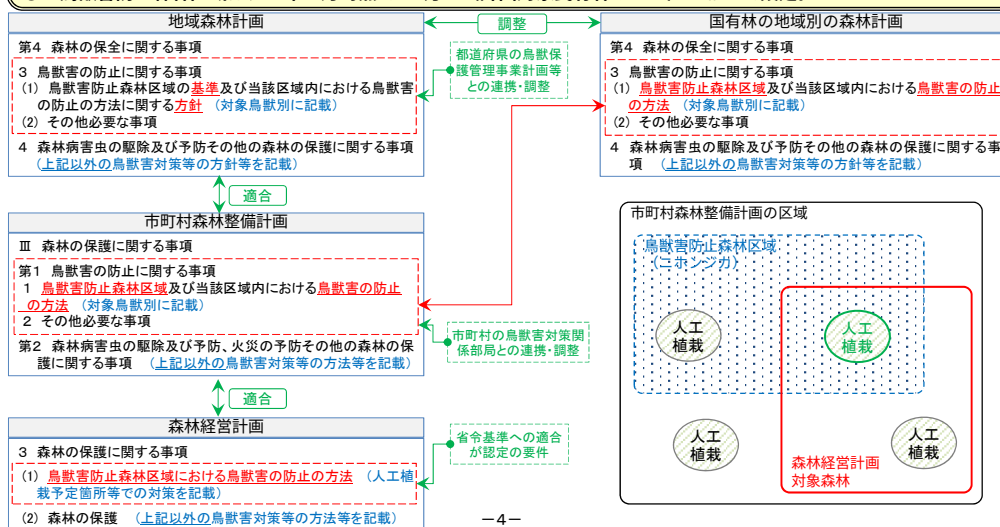
福岡県
嶺南地域 風衝地(以前はチシマザサ等が植生)におけるシカの食害による裸地化

- 3 -

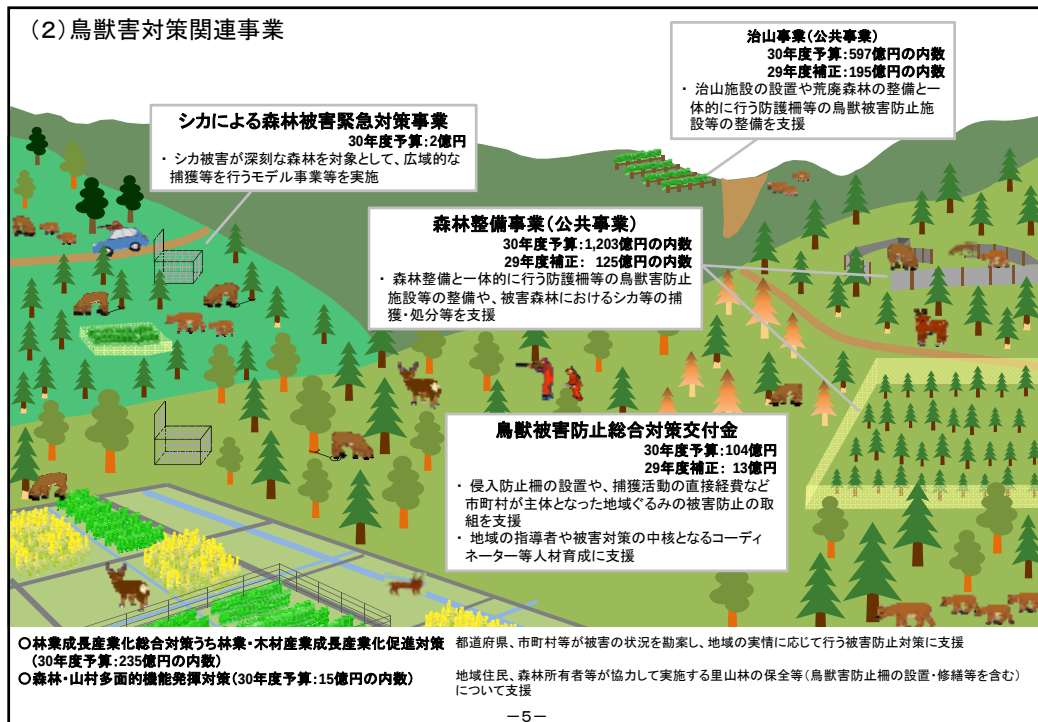
2 森林における鳥獣害対策

(1) 鳥獣害防止に関する森林計画制度での対応(森林法)

- 近年、造林木に対するシカ等の食害が急増しており、樹木の枯死や下層植生の消失による裸地化等森林の公益的機能に大きな影響を与えるなど深刻化している状況。
- このため、伐採後の適切な再造林と造林木の着実な成長を図る観点から、対策を行うべき区域を明確にした上で、当該区域において重点的に鳥獣害対策を行えるよう、平成28年の森林法改正において森林計画制度を見直し。
- 鳥獣害防止森林区域は、30年4月時点で733万ha(計画対象民有林の42%)において設定。



- 4 -



シカによる森林被害緊急対策事業

【平成30年度予算額:166(150)百万円】

シカによる森林被害が深刻な地域において、林業関係者が主体となって行う広域かつ計画的な捕獲と効果的な防除等をモデル的に実施するとともに、シカの侵入が危惧される地域等において、監視体制の強化等を実施。



ニホンジカ 全国生息分布マップ(メッシュ数)
 (環境省資料 平成27年4月)

(1) シカ森林被害防止緊急対策

① 緊急捕獲等実践事業

事業実施主体: 国、都道府県等
 補助率: 定額

シカ被害の深刻な地域において、シカの生息範囲内にある複数の市町村や森林管理署等から構成される広域の協議会が、シカ被害対策の計画を策定し、シカの広域かつ計画的な捕獲等を実施。



囲い網による捕獲



猟銃による捕獲

② 監視強化のための行動把握事業

事業実施主体: 国、都道府県等
 補助率: 定額

新たにシカの侵入が危惧される地域や、生息密度が高まりつつある地域において、シカの監視体制の強化を図るため、GPS首輪を用いた行動追跡調査や、自動撮影カメラを用いたシカの出没状況の調査等を実施。



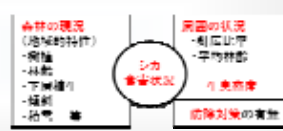
GPS首輪を用いた行動追跡調査



(2) シカ被害対策推進調査事業

委託先: 民間団体等

森林の現況等とシカの食害状況等を基に、森林におけるシカ被害発生リスクの調査分析等を行うことにより、高度で効果的な被害防止対策を推進。



-7-

(3) 鳥獣害対策の技術開発

○ 国や地方公共団体の試験研究機関、森林組合、民間企業等により、様々な鳥獣対策技術を開発。



○ パッチディフェンス

造林地内に小規模面積の柵を点在させ、裸地における森林再生を行う技術。



○ ICTを活用したわな捕獲

わなにカメラが設置されており、映像を確認しながら遠隔で罠を作動させてシカを捕獲できるシステム。



○ 斜め張り防護柵

立木を支柱として利用した倒壊しにくい防護柵。



○ 大型囲いわな

大量のシカの捕獲を目的とした囲いわな。遠隔操作システムと組み合わせて捕獲率の向上、人的コスト削減が可能。



○ 簡易囲いわな

従来の囲いわなよりも軽量の資材の利用により移動運搬や人力での組み立てが可能な囲いわな。



○ モバイルカリング

林道脇に複数の給餌場を設置し、誘引したシカを車両で移動しながら捕獲する手法。

-8-

(4) 国有林野におけるシカ被害対策

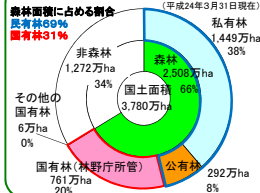
- 国有林野は、我が国の森林の約3割(国土の約2割)に相当し、奥地の急峻な山脈や水源地域に広く分布。
- 国土の保全、水源の涵養、地球温暖化の防止、生物多様性の保全などの重要な公益的機能の発揮が期待。(約9割が保安林に指定。政府(林野庁)が「国有林野事業」として一元的に管理経営。)

■ 国有林野の分布と組織

全国7森林管理局、流域(森林計画区)を単位とした98森林管理署等を設置し、直接、国有林野を管理経営
※ 平成25年4月、国有林野事業の組織・事業の全てを一般会計に移行



■ 森林面積と国有林面積



■ 多様な自然を有する国有林野

(平成29年4月1日現在)

	面積 (万ha)	国有林野 での割合
国有林(林野庁所管)	761	
国有林野	758	
保安林	685	90%
保護林	98	13%
緑の回廊	58	8%
レクリエーションの森	37	5%
世界自然遺産	8	1%
自然公園	220	29%
鳥獣保護区	126	17%

注1: 国有林野の面積は、国有林野管理経費(第12条第1項)に基づく計画的な森林の調査であり、官庁森林は含まない。
注2: 保安林(林野庁所管)の面積は平成23年度末現在。
注3: 保安林、自然公園及び鳥獣保護区の面積は平成23年4月現在、面積は平成23年4月現在。

■ 鳥獣被害対策

・地域の農林業や生態系に多大な被害を与えているシカ等の野生鳥獣に対し、地域の関係行政機関や地元猟友会等と連携し、盗林地等に防護柵を設置するとともに、シカの行動を把握するための出没状況調査及びわな等による捕獲を推進。



防護柵等の設置によるシカ被害防除対策の推進



大型囲いわなによるシカ捕獲



自動撮影カメラを用いたシカの出没状況調査

国有林におけるシカによる森林被害対策として、①地域との連携によるシカ被害対策の検討、②モニタリングによる生息状況・被害状況等の調査、③捕獲等による被害防止対策を推進。

① 地域との連携によるシカ被害対策の検討

地域の関係行政機関や学識経験者、NPO等と連携し、効果的・効果的な対策を検討。



地域関係者との協議会



地域関係者との現地検討会の実施



シカ被害対策実施状況等の発表

② モニタリングによる生息状況・被害状況等の調査

被害防止対策を効果的に実施するための、GPS首輪による行動追跡調査や自動撮影カメラ、ライトセンサス、足跡・糞・食害痕によるシカの出没状況等の調査、情生の被害状況調査を実施。



GPS首輪による行動追跡調査



簡易チェックシートによる植生被害調査

③ 捕獲等による被害防止対策

モニタリングによる生息状況・被害状況等の調査結果に基づき、職員や委託事業によるくくりわな・囲いわな等を用いた効果的・効果的な捕獲を実施しているほか、地元市町村、猟友会等との協定に基づくわなの貸し出しにより、国有林・民有林が一体となった広域的な捕獲を実施。



銃による誘引捕獲



ICT技術を活用した簡易囲いわな



職員によるくくりわなの設置



地元市町村等と森林管理署の協定書の調印式

- ☆ シカによる森林被害が発生している地域において、積極的な捕獲等の実施により、森林被害を軽減
- ☆ シカによる森林被害の軽減を図ることにより、森林の有する多面的機能を将来にわたって持続的に発揮させていくことに貢献